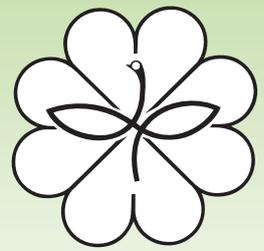


人と行政のつなぎ役—— 民生委員・児童委員



足腰が弱いのに
身近に相談できる人が
いないのよね。



子育てについて
悩みがあるけど
家族の話は相談
しにくいわ。

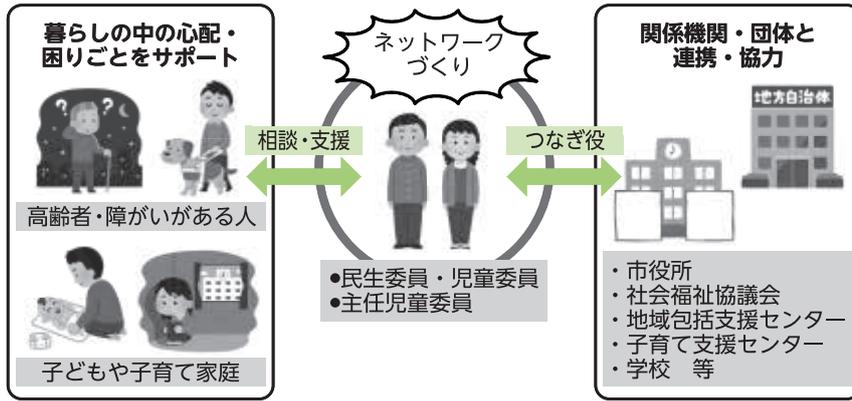
最近、人と
話していないせいで、
暗い気持ちになることが
多いんじゃない。



皆さんは、「民生委員・児童委員」がどのような活動をしているか知っていますか？核家族化や少子高齢化によって地域や人のつながりが薄れている昨今。さらにコロナ禍による対面や移動を避ける生活様式は、つながりをより希薄化させています。その中で不安を抱えていても、「このご時世ではなかなか相談しにくい」と思っている人もいますかと思えます。

今回の特集では、不安や悩みを抱える人たちに寄り添い、地域と行政をつなぐ民生委員・児童委員についてお伝えします。

民生委員・児童委員の活動イメージ



市民の皆様と地域・行政をつなぐ、地域に根ざした活動をしています。



協議会で情報交換する委員

民生委員・児童委員って？

民生委員・児童委員とは、民生委員法に基づき厚生労働大臣から委嘱された非常勤の地方公務員特別職です。給与の支給はなく(※)、ボランティアとして活動しているもので、任期は3年です。

※交通費など活動に必要な費用弁償があります。

民生委員・児童委員の役割

民生委員・児童委員の活動は、高齢者宅への訪問が主体と思われがちですが、そのほかにも障がいのある人や子育て世帯などへの家庭訪問も行っています。分野を限定することなく、地域住民の身近な相談相手として日常生活の悩みや困りごとなど多岐にわたって対応しています。

また、民生委員・児童委員は、住民が抱える悩みごとや地域の困りごとを解決するために、福祉など行政サービスの情報提供を行ったり、住民の要望を市役所などの行政へ働きかけたり、各種専門機関の紹介などを行っています。困りごと解決の際には個人の私生活に立ち入ることもありますが、民生委員・児童委員には活動の中で知り得た情報については守秘義務があるため、相談内容の秘密は必ず守ら

れます。「相談したいけど、他の人に話されたら嫌だな」と相談をためらっていた人も、安心して相談できます。

主任児童委員の役割

民生委員・児童委員の中には、主任児童委員という役割の人がいます。主任児童委員は、子どもや子育てに関する専門的な知識を持った人が委嘱されることが多く、通常の民生委員・児童委員では対応が難しい子どもや子育て世帯への支援を専門に担当します。各地区担当の民生委員

・児童委員と連携をとりながら、市全体の子育て支援や子どもたちの健全育成活動などに取り組んでいます。

本市の民生委員・児童委員

本市には、地区ごとに割り当てられた民生委員・児童委員がいて、烏山地区では39人、南那須地区では26人が活動しています。また、主任児童委員として烏山地区では2人、南那須地区では2人が活動しています。

市全体での連携を図るために那須烏山市民生委員児童委員協議会が年3回開催され、市全体の協議会がないう月には地区ごとの協議会が開かれます。烏山地区では、第2火曜日に那須烏山市烏山地区民生委員児童委員協議会が、南那須地区では、第2

金曜日に那須烏山市南那須地区民生委員児童委員協議会が開催され、各協議会の中で高齢者部会・障がい者部会・児童部会の3部会に分かれて、部会ごとに実際にあった問題を報告、共有し、対応を協議しています。

協議会のほかには、県が行う研修会に参加して自分の地域で活動する際の参考にしたり、市内の高齢者施設や児童施設を視察・訪問することで地域の現状把握に役立てたりしています。また、施設などで歌や演劇を披露するレクリエーションをはじめとした奉仕活動や、定期的に高齢者宅に向いて困りごとの相談と安否確認を行っています。

民生委員・児童委員は、様々な活動をおして、困っている人と行政をつないでいます。高齢者や障がい者、子育て世帯などへの支援は、困りごと解決のために様々な分野にまたがる場合も多く、大変なこともあります。しかし、より良い地域社会になるように、地域のだれもが笑顔で安心して生活し続けられるように、委員の皆さんは地域福祉の充実を目指しています。

次のページでは、実際に活動している民生委員・児童委員の活動を紹介します。

民生委員・児童委員の活動を見てみよう

岡とよ子さんは、約3年前から旭1丁目・2丁目担当の民生委員・児童委員として活動しています。今回は、現在84歳になる平山愛子さん宅への訪問に同行し、おふたりに普段の関わりについてお話を伺いました。



友達のような関係を築き、必要な支援を



民生委員・児童委員
岡とよ子さん

「民生委員・児童委員だからこれをしてあげなくちゃ」ではなくて、友達同士のような関係を築けるように活動しています。やみくもにこちらから手を差し伸べるのではなくて、お年寄りが必要な時に私に声をかけてもらって、必要な支援を届けられるのが理想だと思います。

私からあれこれ聞き出さなくても、お年寄りの方から困りごとを相談してもらえることが多くなりました。それがとてもうれしいので、相談してもらったことはできるだけ解決してあげたいと思っています。また、近所の人もお年寄りのゴミ捨てなどのお手伝いを自主的にしてくれて、地域に自然と助け合いの輪が広がっていると感じています。

平山さんはとにかく明るくてチャームング！お年寄りから元気をもらえるので、私も委員の活動が楽しいです。

岡さんと話すことがとても楽しみ！



訪問先
平山愛子さん

夫が亡くなって気落ちしていた時期もありましたが、民生委員・児童委員の岡さんにいつも来てもらって助かっています。岡さんは声をかけやすいし、困ったことを伝えればすぐに対応してくれるので、安心して生活できています。何より、岡さんと話をするのがとても楽しいです。

3年前に岡さんに誘ってもらった「高齢者ふれあいの里」に、毎週行くのが楽しみで仕方がないです！最初は体が思うように動かなかったり、ごはんもたくさん食べられなかったりしましたが、今では元気に体が動かせるし、美味しくごはんが食べられています。皆さんと体操したり工作したりしていると、つつい夢中になってしまいます。

会長の声



那須烏山市民生委員
児童委員協議会
会長 大谷頼正さん(小河原)

民生委員・児童委員の活動を始めて、7年目になります。コロナ禍になってからは、県が主催する研修への参加や福祉施設の視察などの活動がほとんど中止となってしまいました。民生委員・児童委員として積極的な活動がなかなかできず、大変な面もあります。研修や視察は、事例研究などをおして家庭ごとに異なる問題に適切に対応するための知識を得られる大切な学びの機会です。集まって学ぶことが難しい現在では、委員それぞれが映像教材を活用することで、密を避けながら学びの機会を絶やさないように努めています。私自身、活動の中では、直接訪問するだけでなく、遠くから様子を確認したり買い物で会ったときに世間話をしたりという「日常生活の中での見守り」を意識しています。いずれはコロナ禍が終息して、以前の日常が戻ってくれば、それが委員にとっても訪問を受ける側にとっても、良いことですね。